

古谷 全球団OK

「指名あればどこいでも」



江陵高の谷本献悟監督（前方左）と西田つばさ部長（同右）の励ましを受けプロ志望届を手にする古谷優人（同中央）。同高野球部の仲間や後輩たち（後方）に大きな刺激を与える存在だ



降雨の中で力投、全国高校野球北北海道大会で20奪三振の大会記録を出した古谷優人（7月18日の準々決勝、釧路工戦）

北大会記録 1試合20Kの豪腕

江陵高野球部で左腕エースとして活躍、今夏の全国選手権北北海道大会で20奪三振と記録を更新するなどして注目された古谷優人（17）は3年11月28日午前、プロ志望届を提出した。10月20日のプロ野球新人選手

来月20日ドラフト会議

プロ志望届は28日午前、日本高野連の窓口となる道高野連十勝支部に提出、受理された。谷本献悟監督は「江陵高校野球部からプロ

入りを目指す選手が出たこととはうれしく思うが、まだ何も決まっていない。ここからが本場の勝負」と話す。古谷は夏の支部予選準決

古谷は北大会後も野球部の練習に参加し、シートノックを手伝ったり、ピッチング指導や遠征に帯同したりするなど、秋の支部予選に臨む新チームのサポートに徹してきた。この間に「みんなに愛されるプロ野球選

手になりたい」との決意を固め、大安吉日の28日にプロ志望届を提出することを決めた。古谷ら3年生のサポートを受け、秋の支部予選で健闘した新チームの高橋良太主将（2年）は「古谷さんがプロ野球選手になって活躍することを心から願っている。先輩たちが築いた歴史を壊さないように自分たちもしっかりやりたい」とし、夏の北大会で古谷と共にマウンドにも立った工藤遼太郎副主将（同）も「プロの舞台で持ち味のストリートを存分に発揮してもらいたい。自分もいつか古谷さんのようになりたい」と大きな刺激を受けている。27日午後5時現在、日本高野連が受理したプロ志望届提出者数は84人となっている。注目のドラフト会議は10月20日午後5時から、東京都内のグランドプリンスホテル新高輪を会場に行

江陵高野球部で左腕エースとして活躍、今夏の全国選手権北北海道大会で20奪三振と記録を更新するなどして注目された古谷優人（17）は3年11月28日午前、プロ志望届を提出した。10月20日のプロ野球新人選手

選択会議（ドラフト会議・東京）では指名の有力候補と見られており、期待が高まる。古谷は「指名してくれる球団があれば、どこでも行きたい」と意志を固めている。（内形勝也、北雅貴）

勝（6月29日）の帯谷戦で、帯広の森野球場に詰めかけたプロ野球12球団中11球団の30人を超えるスカウト陣を前に、最速149km/hの速球を披露した。支部代表として全国選手権北北海道大会（旭川スタルヒン球場）に臨んだ江陵は初戦を勝ち上がり、迎えた2回戦の旭川西戦（7月17日）では154km/hの剛速球で相手打線を封じ込め、5-1の完投勝利。続く準々決勝の釧路工戦（同18日）では、降りしきる雨の中で、大会新記録となる20奪三振を記録し、3-0の完封勝利でチームを初の4強に導き、圧倒的な存在感を示した。